

「オオサンショウウオ構想」宣言について、なぜオオサンショウウオと名付けたのか？

金城ふ頭～ガーデンふ頭～中川運河・ささしまライブを「みなとまちエリア」と呼び、このエリアの発展の歴史やエリアの形をオオサンショウウオになぞらえた。

「みなとまちエリア」は、かつて“あゆち潟”と呼ばれた海であった。干拓が進み水田となり、その後、名古屋港と名古屋駅を結ぶルートとして中川運河が整備された。”東洋一の大運河”と例えられた中川運河は、水運物流の軸として中部地方の経済・産業の発展を支え、このエリアは「みなと」として発展してきた。

この発展の歴史は、海から陸へとオオサンショウウオが辿ってきた道に通じる。

また、「金城・ガーデンふ頭エリア」は、オオサンショウウオの尻尾・後ろ足に位置し、地域の”モノづくり産業”や”まちの賑わい”を発展させる推進力を担うエリアである。

「中川運河」は、オオサンショウウオの背骨に位置し、名古屋都心と「みなと」をつなぎ、エリア全体の骨格を支えているエリアである。

「ささしまライブ」は、オオサンショウウオの頭部に位置し、名古屋都心と「みなと」を融合し、多様で感性豊かなまちの顔となるエリアである。

大きな口をもつオオサンショウウオが、その大きな口を開き、名古屋駅から栄までを飲み込むようなイメージで、都心のまちづくりに波及効果をもたらすよう期待を込めた。

今はまだ、名古屋の「みなとまちエリア」は、口を閉じて静観しているような影響力しかないが、いずれは栄付近までつながる巨体に成長するイメージを皆様に伝えたい。

<その他>

平成 17 年に、名古屋港に繋がる堀川上流（名古屋市北区）でオオサンショウウオが目撃された。現在の堀川や中川運河を含む名古屋港の水質はオオサンショウウオの生息には適しているとは言い難い。オオサンショウ構想には、将来、人が集い、多様な生物が生息する環境となることへの願いも込められています。

